

農産物：穀物価格低迷と米国農業の景況感悪化

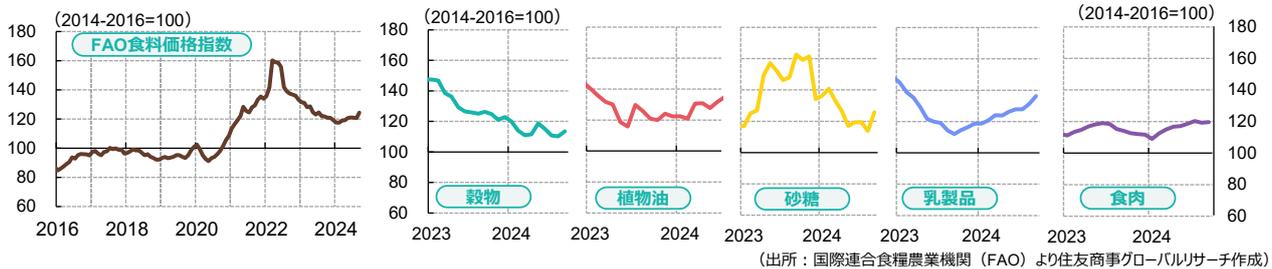
調査レポート

2024年10月7日
経済部 シニアアナリスト
鈴木 直美

9月に食料価格は上昇

国連食糧農業機関（FAO）が10月4日に発表した世界食料価格指数は、2024年9月は124.4ptと、前月比3%上昇。主に、ブラジルの生産見通し悪化など供給懸念を背景とする砂糖価格の急騰が寄与した。世界各地の天候不順などを受け指数を構成する全セクターが値上がりしたが、米国では2024年度トウモロコシ・大豆は記録的収穫高が見込まれ、穀物市況は相対的に軟調。シカゴ先物市場は9月の価格反発を受けてもなお2020年以来の安値圏にある。

FAO食料価格指数

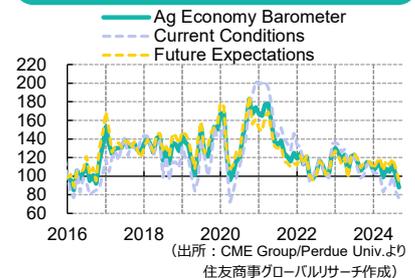


農業景況感

米CMEとパデュー大学が10月1日に発表した2024年9月の米国農業経済バロメーター指数（2015年10月～2016年3月＝100）は88と、前月から▲12ptとなり、2016年以来の低水準となった。サブ指数では、現況指数が76、将来期待指数は94と低かった。これは400人の農業生産者を対象に月次で農業財務・投資に関するセンチメントを調査しているもの。9月の調査は9月9～13日に行われた。

農家に対し、2025年の最大の懸念事項を具体的に尋ねたところ、投入コスト高騰（34%）作物価格低下（33%）がトップ2で、金利（17%）がそれに続いた。また、米国の農産物輸出が今後5年間に増加するという回答はわずか26%で、2019年の調査開始以来最低だった。回答者の78%は、選挙後に政策変更が農場経営に影響することを不安視。農業財務実績指数は、9月は68と、3か月連続で低下した。多くの生産者が大規模投資には不適な時期とみており、農業設備投資指数は35と、極めて低い水準に留まっている。短期農地価格指数は95と、2020年以來初めて100の節目を下回り、上昇の予想を下落の予想が上回った。

Ag Economy Barometer



農業所得

米国農務省の経済調査サービス（ERS）が9月5日に更新した農業セクター所得に関する予測でも、米国農業の厳しい状況が描き出されている。利益の広範な指標として示されている純農業所得（net farm income）は、2022年に名目ドルベースで1,820億ドルと過去最高を記録したが、作物価格の下落とコスト上昇圧力を受けてここ2年で急減し、2024年は推定1,400億ドルと前年比▲4%（インフレ調整後の2024年ドル換算では前年比▲6.8%）。2月時点の予測1,161億ドル（▲25.5%）から意外にも大幅に改善したのは、2023年分を下方修正した影響と生産コストの低下に起因するが、人件費や支払利息などのコスト負担は増え、肥料・飼料・燃料コスト低下の効果を相殺している。牛・乳製品・卵の価格高騰で畜産業界の業況は当初予測より改善したが、作物農家は依然として厳しい状況に置かれている。

作物農家の現金収入を品目別で見ると、トウモロコシ▲160億ドル（▲20%）、大豆▲86億ドル（▲14.6%）と、いずれも当初予測から大幅な下方修正。小麦（▲12.3%）・綿花（▲23.6%）も落ち込む。豊作だが、あるいは豊作だからこそ、世界的に供給過剰となり、値下がりを通じ収入が減る構図となっている。

以上